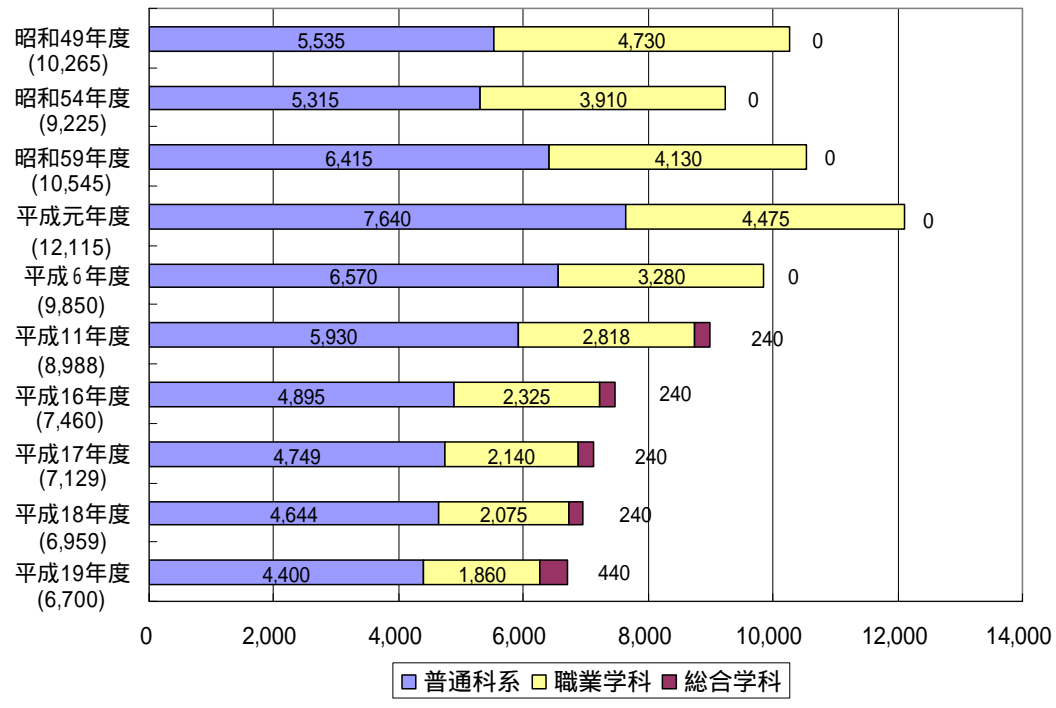


## 学校別学科・学級数の推移（公立・全日制・第1学年）

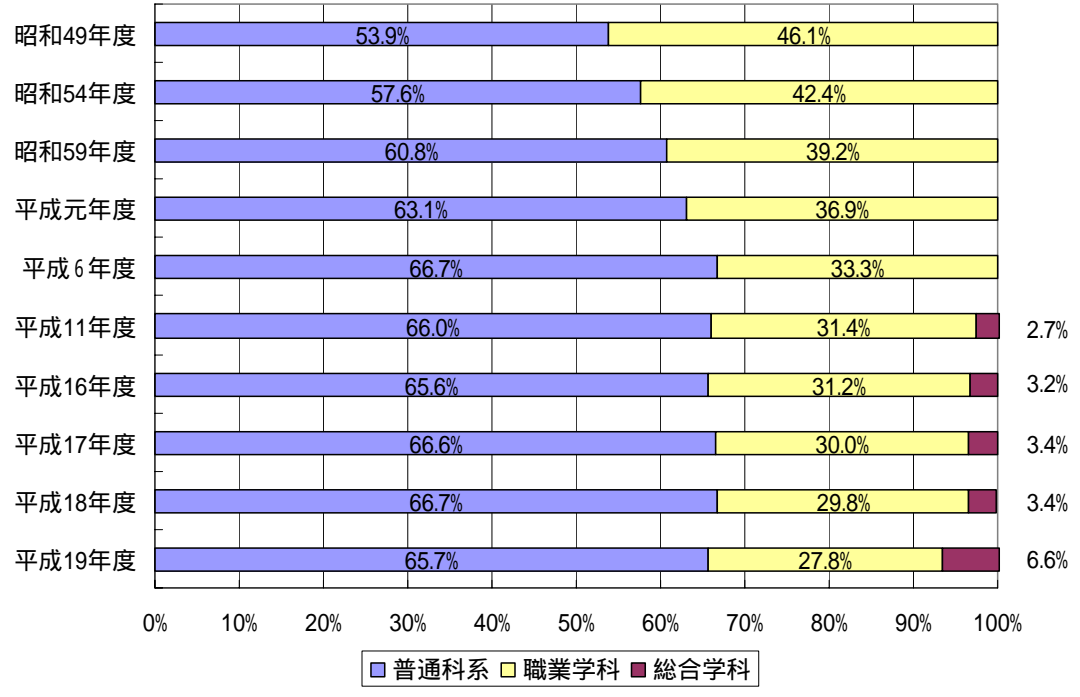
	平成元年度		平成11年度		平成19年度	
	大学科	1年	大学科	1年	大学科	1年
小豆島	普	5	普	4	普	4
土庄	普・商	7	普・商	6	普	4
三本松	普・理	7	普・理	5	普・理	5
大川東	普・農	3	普・農	3		
石田	農・家	4	農・家	4	農・家	4
志度	商	7	工・商	5	工・商	4
津田	普・家	7	普	4	普	4
三木			文・総	4	文・総	4
高松	普	12	普	10	普	8
高松工芸	工・美	14	工・美	10	工・美	8
高松商業	商・外	12	商・外	10	商・外	8
高松東	普・家・普(分)	13	普	8	普	6
高松南	普・農・家・厚	15	普・農・家・厚	11	普・農・家・看	7
高松西	普	11	普	9	普	7
高松北	普	13	普	10	普	6
香川中央	普	12	普	10	普	7
高松桜井			普	7	普	6
農業経営	農	4	農	4	農	4
坂出商業	商	8	商	5	商・情	5
坂出	普・音	11	普・音	10	普・音	7
坂出工業	工	7	工	5	工	4
丸亀	普	10	普	9	普	7
飯山	普・農・厚	8	厚・総	5	看・総	5
丸亀城西	商	7	普・商	7	普	5
善通寺第一	普	9	普	7	普・工	6
善通寺西	工・家	3	工・家	3		
琴平	普	7	普	7	普	6
多度津工業	工	9	工	5		
多度津水産	水	4	水	3		
多度津					工・水	6
笠田	農・家	4	農・家	4	農・家	4
高瀬	普	8	普	7	普	4
観音寺第一	普・理	10	普・理	9	普・理	8
観音寺中央	商・家	8	普・商・家	6	総	5
三豊工業	工	5	工	4	工	3
高松第一	普・音	13	普・音	10	普・音	8
		277		230		179

## 普通科系・職業学科・総合学科の定員の推移（公立・全日制）

入学定員（人）



比率



注) 普通科系：普通科・理数科・音楽科・美術科・外国語科・文理科

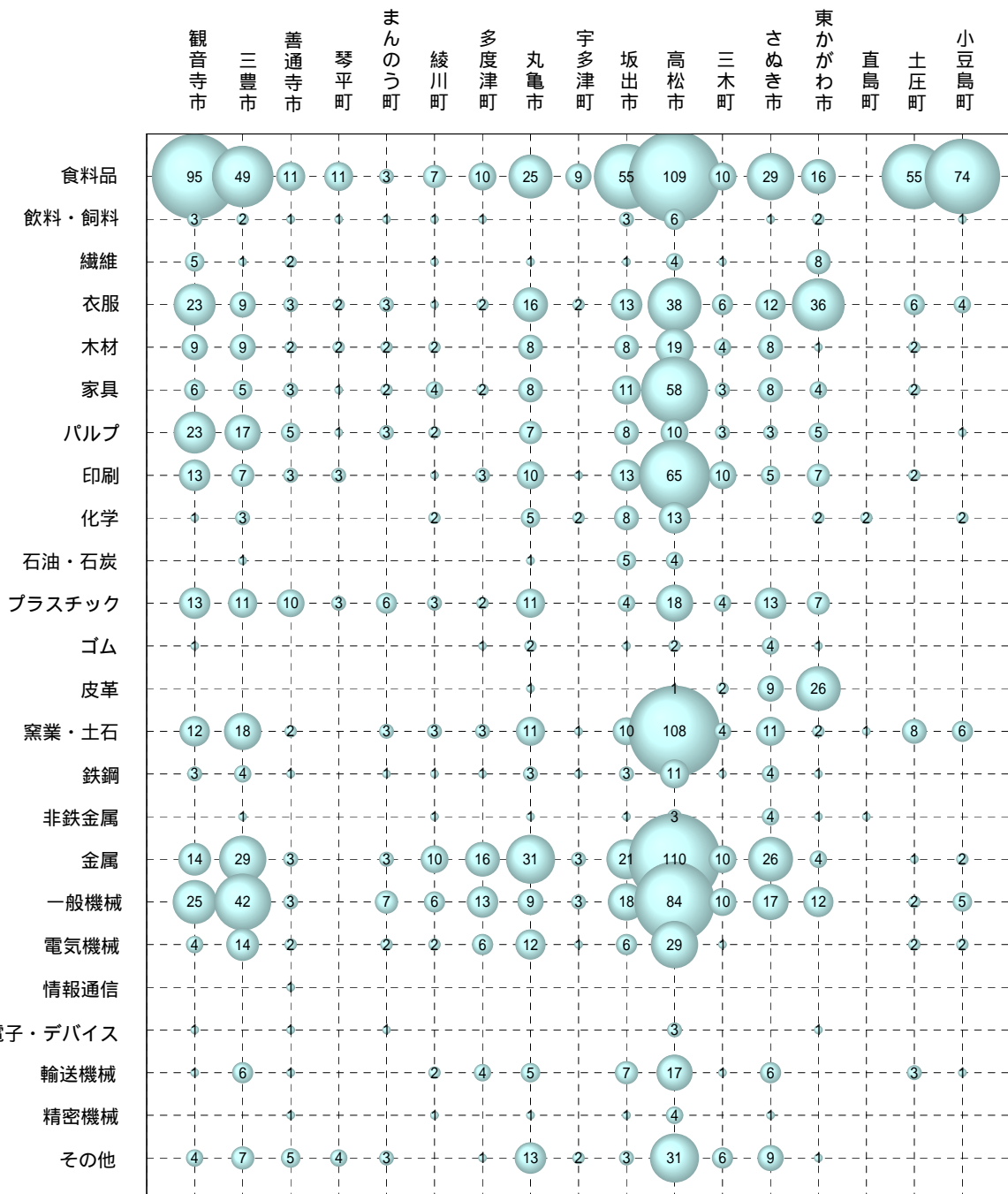
職業学科：農業科・工業科・商業科・水産科・家庭科・看護科・情報科

## 業種別・市町別の事業所数・従業者数の分布(平成18年)

### 【業種別に見た分布の多い市町】

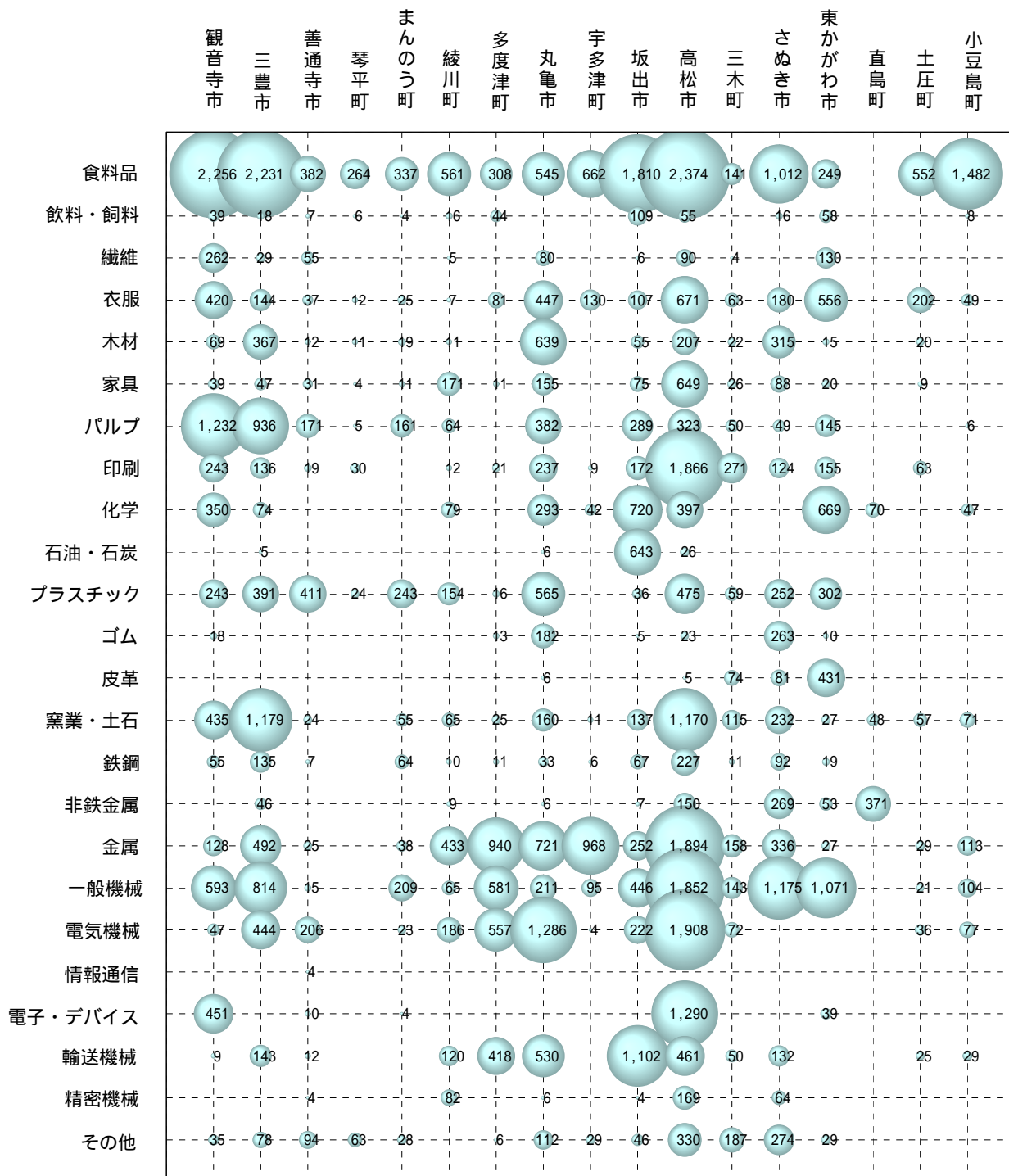
- 「食品」・・・高松市、観音寺市、小豆島2町をはじめ多くの市町に分布
- 「パルプ・紙」・・・観音寺市、三豊市
- 「家具」, 「印刷」・・・高松市
- 「化学」・・・臨海部の市町
- 「石油・石炭」・・・坂出市
- 「プラスチック」・・・高松市・坂出市など多くの市町に分布
- 「皮革」・・・東かがわ市
- 「窯業・土石」・・・高松市、三豊市
- 「非鉄金属」・・・直島町
- 「金属」, 「一般機械」, 「電気機械」・・・高松市をはじめ多くの市町に分布
- 「電子・デバイス」・・・高松市、観音寺市
- 「輸送機械」・・・坂出市、高松市、丸亀市

### (事業所数)



資料) 経済産業省『平成18年工業統計表』より

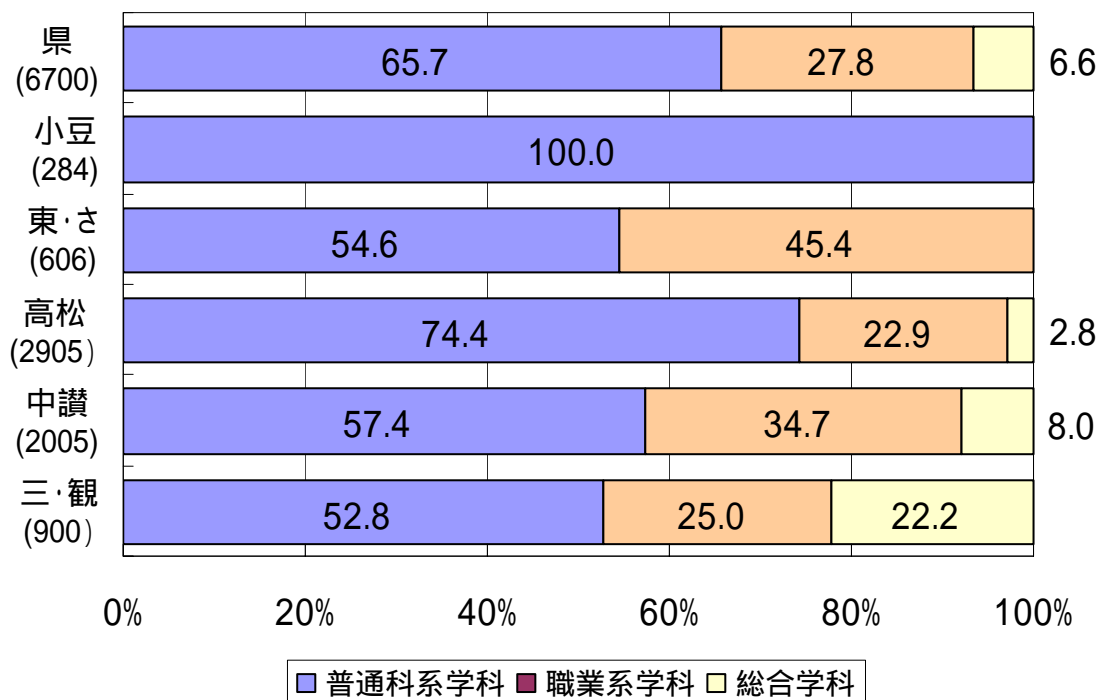
(従業者数)



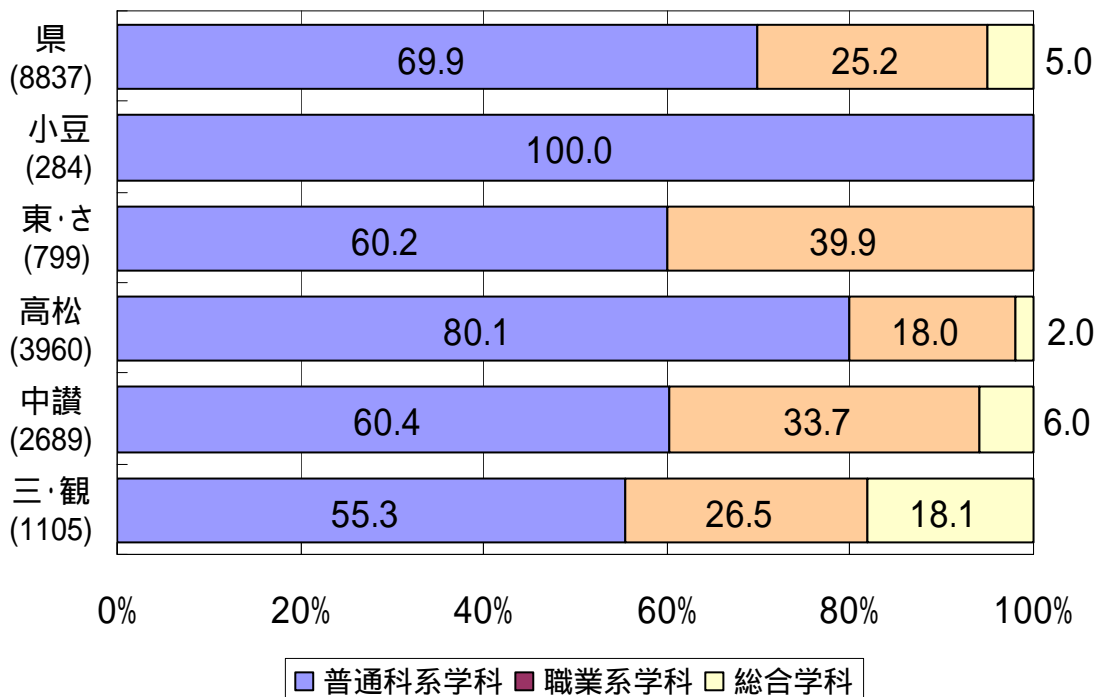
資料) 経済産業省『平成18年工業統計表』より

## 地域別学科構成比の比較

(公立、平成19年度定員割合)



(公立+私立、第1学年在籍者数割合)



(H19.5.1現在・学校基本調査)

普通科系学科 : 普通科・理数科・音楽科・美術科・外国語科・文理科

職業に関する学科 : 農業科・水産科・工業科・商業科・家庭科・看護科・情報科・福祉科

## 資料 13

地域別・学科別入学定員（H19・公立・全日制・第1学年）

（単位：人、％）

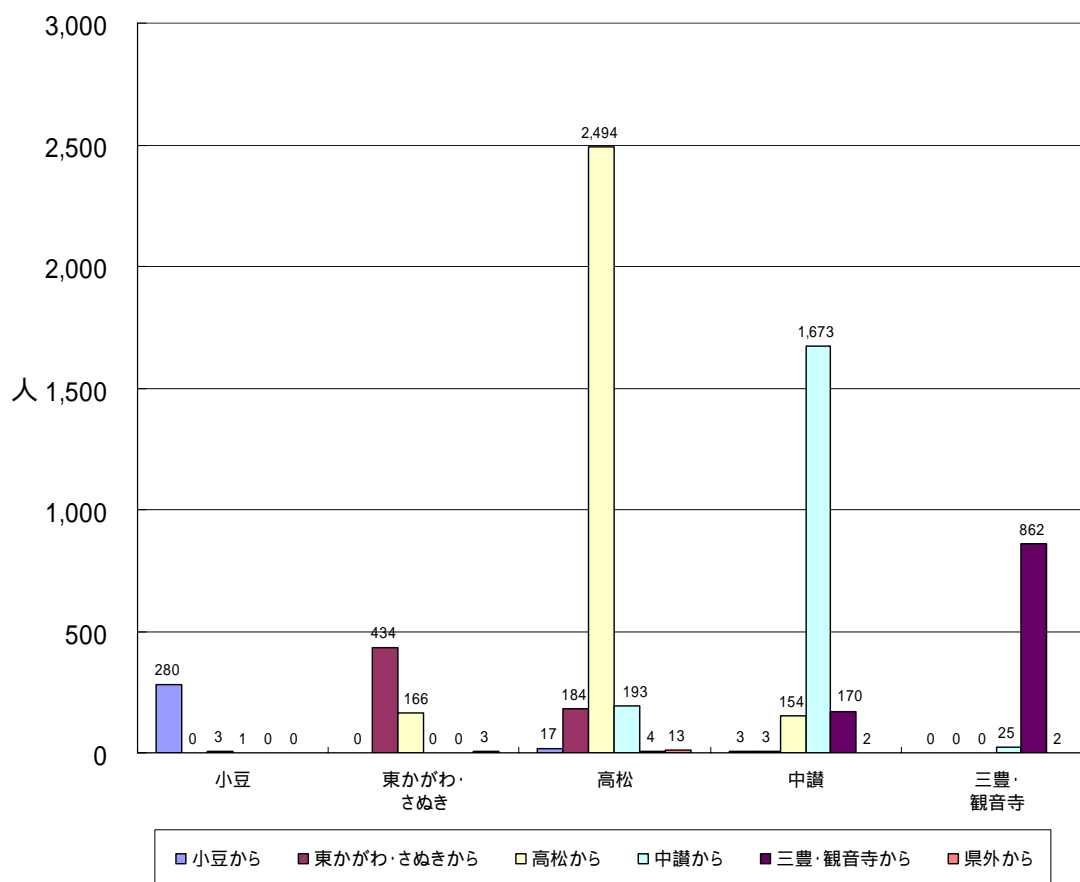
大学科	小豆		東・さ		高松		中讃		三・観		計		全国	
	定員	割合	定員	割合	定員	割合	定員	割合	定員	割合	定員	割合	割合	
普通科	284	(100.0)	296	(48.8)	1,995	(68.7)	1,125	(56.1)	440	(48.9)	4,140	(61.8)	(66.2)	
職業学科	農業科		105	(17.3)	40	(1.4)	120	(6.0)	90	(10.0)	355	(5.3)	(4.0)	
	工業科		70	(11.6)	260	(9.0)	315	(15.7)	105	(11.7)	750	(11.2)	(10.1)	
	商業科		70	(11.6)	270	(9.3)	135	(6.7)			475	(7.1)	(8.5)	
	水産科						60	(3.0)			60	(0.9)	(0.5)	
	家庭科		30	(4.9)	60	(2.1)			30	(3.3)	120	(1.8)	(1.3)	
	看護科					35	(1.2)	35	(1.8)			70	(1.1)	(0.2)
	情報科							30	(1.5)			30	(0.4)	(0.1)
	福祉科											0		(0.2)
普通科系 専門学科	理数科		35	(5.8)					35	(3.9)	70	(1.0)	(3.2)	
	音楽科				30	(1.0)	25	(1.2)			55	(0.8)		
	美術科				25	(0.9)					25	(0.4)		
	外国語科				40	(1.4)					40	(0.6)		
	文理科				70	(2.4)					70	(1.0)		
総合学科					80	(2.8)	160	(8.0)	200	(22.2)	440	(6.6)	(5.7)	
計	284	(100.0)	606	(100.0)	2,905	(100.0)	2,005	(100.0)	900	(100.0)	6,700	(100.0)	(100.0)	

全国データは、第1学年在籍者数（平成18年度学校基本調査）

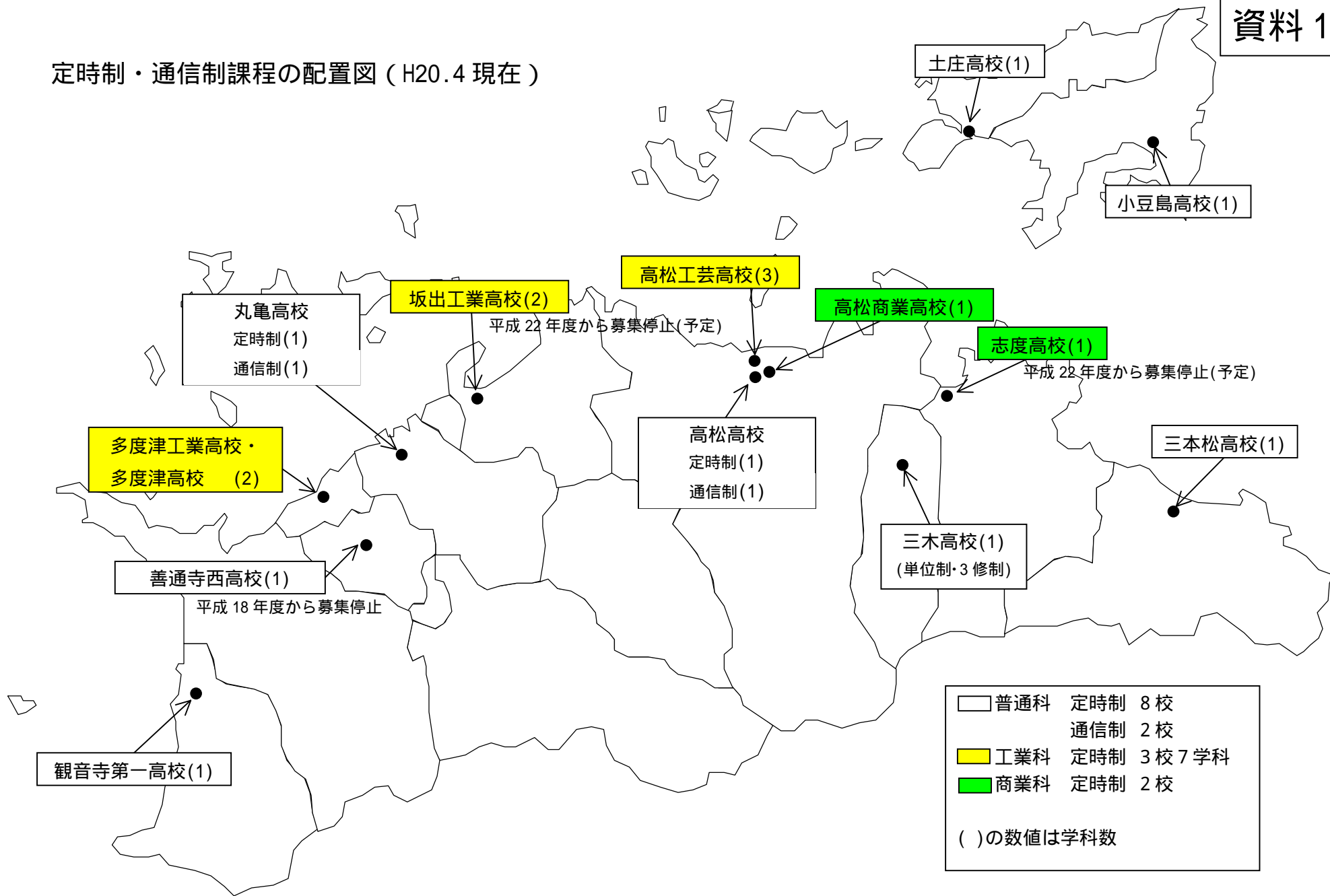
# 資料 14

## 公立高校の地域別合格者数（H19.3 合格者・全日制）

		進学先					合計
		小豆	東かがわ・さぬき	高松	中讃	三豊・観音寺	
地域	小豆地域	280	0	17	3	0	300
	東かがわ・さぬき地域	0	434	184	3	0	621
	高松地域	3	166	2,494	154	0	2,817
	中讃地域	1	0	193	1,673	25	1,892
	三豊・観音寺地域	0	0	4	170	862	1,036
	県外	0	3	13	2	2	20
	合計	284	603	2,905	2,005	889	6,686



定時制・通信制課程の配置図 (H20.4 現在)





## 公立高等学校と私立高等学校の入学定員について

## 1 高等学校の適正な配置等

公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律(昭和36年11月)第4条

「都道府県は、高等学校の教育の普及及び機会均等を図るため、その区域内の公立の高等学校の配置及び規模の適正化に努めなければならない。」この場合において、都道府県は、その区域内の私立の高等学校並びに公立及び私立の中等教育学校の配置状況を十分に考慮しなければならない。」

## 2 公私立高等学校協議会の設置

公私立高等学校協議会の設置について(昭和50年9月文部省通知)

「各都道府県においては、知事部局、教育委員会、学校法人の関係者等を構成員とする「公私立高等学校協議会」を設け、公私立の高等学校教育に係る諸問題を協議することが適当と考えますのでよろしくお取り計らい願います。」

## 3 本県における協議の経過

## (1)昭和46年の諒解事項

団塊の世代が高校を卒業し生徒急減が始まった昭和40年以降、私学関係団体から入学定員確保の要望が行われ、昭和46年、県教育委員会と私学関係団体との間で諒解事項が決定された。

「昭和44年度(の公立高校と私立高校への進学率)を基準にして理論的に(それぞれ進学者の)伸び率を公立対私立の比を3対1とする」

## (2)協議会の設置

昭和53年、「香川県公私立高等学校教育問題協議会」が設置され、昭和57年、協議会から知事・教育長に対し報告がなされた。

「公私立高等学校の入学定員については、今後予想される中学校卒業生の急増・急減期に対応できるよう、現在までの実情を基本に、公私立高等学校における役割分担、教育環境の水準等を勘案して決定すること」

### (3) 公立高校入学定員の見直し

平成 14 年度の公立高校全日制入学者数と私立高校入学者数の比率が約 3.4 : 1 となり、私学関係団体から公立側の定員数を見直すことが求められ、平成 15 年 6 月から協議会において検討の結果、平成 16 年 3 月に次のような報告がなされた。

「全日制高校の入学定員の算定に当たっては、・・・これまでの全日制高校入学者志願率を用い、高等学校専門学校の定員や県外からの受け入れ、県外への流出などを考慮して、全体の定員を設定し、それを公立が 3、私学が 1 の割合で分担することが望ましい。」